

閉会の辞

「東京の障害者運動

——金井闘争をふりかえる」

市野川容孝

障害児を普通学校へ

金井 康治氏(かない ちやうじ) とうじい東京障害者労働センター職員) 11日午前8時3分、東京都文京区の病院で死去、30歳。葬儀・告別式は13日に営まれた。妻は母長谷川律子(はせがわ りつこ)さん。自宅は東京都足立区花畑5の18の54の105。

脳性まひの障害児として生まれたが、八歳のとき、養護学校から普通学校の足立区立花畑東小学校への転校を希求し、自主登校などの運動を展開した。障害児が普通学校で学ぶことを求める全国的な運動の先駆けとなった。

朝日新聞(1999年9月14日付夕刊)

障害者・保育・教育の総合誌

1980年

福祉労働 6

特集 養護学校義務化から一年

学校はどう変わったか／北村小夜

普通学校から追い出された子どもたち／福井達雨

普通学校の中の「障害児」／奥村育子

義務化一年後の養護学校／小福田史男・小島靖子

欧米の統合教育／石川憲彦

論文

清水寛氏批判…藤原睦治
 福祉理論批判…その①
 鷲谷善教氏批判…大谷 啓



障害者・保育・教育の総合誌

1981年

福祉労働 10

特集 養護学校義務化から2年

進んだ振り分け、盛んな交流

すべての子どもが胸をはって歩ける社会を

すべての子どもの保育教育保障をめざして

義務化2年目の日教研障害児分科会

北村小夜/福井達雨/宮脇繁紀/梅谷明子/藤 飄/小福田史男



特別寄稿

渡部昇一氏の「神聖な義務」との闘い…横田 弘

論文

「障害児の教育権」思想批判…その⑤
 「障害の早期発見・早期治療」の諸問題…藤原睦治

1980年3月

戒厳令下の転校闘争

